

通常の学級における学習につまずきのある子どもへの 多層指導モデル（M I M）開発に関する研究

Development of Multilayer Instruction Model for Stragglng Learners
in General Education Class

（課題番号 若手研究(A) 18683008）

平成18-20年度 文部科学省科学研究費補助金（若手研究(A)）研究成果報告書
「学習につまずきのある子どもへの多層指導モデル（M I M）開発に関する研究」

研究代表者 海津 亜希子

（独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所）

はじめに

この研究で明らかにしたかったことは、“特別支援教育を推し進めることによって、通常の教育一般に対し何らかの効果をもたらし得るのか”ということであった。これらについては、実際の教育の場においても、教員の実感としてささやかれるようになった。しかし、科学的根拠を示したものは、これまでほとんど見当たらなかった。そこで、特別支援教育の特徴である“個”をみる視点を重視することによって、特別な教育的ニーズを有する子どもだけでなく、異なる学力層の子どもにおいても効果がもたらされるのかを、研究的視点をもって追究することとした。

もうひとつ、多層指導モデル（MIM）における指導コンテンツとして本研究において焦点を当て、その指導法を開発したいと思ったのが“特殊音節”という指導課題であった。

これまで、筆者もLDのある子どもの学習指導に携わって、この領域で苦しむ子どもを少なからず見てきた。この“特殊音節”は、読みの中でも、基本中の基本であって、ここでつまずくということは、国語領域に留まらず、他の領域においても、さらには、日常生活にまで支障をきたすといっても過言ではない。自分が読みたい本、知りたい情報に触れるにしても、このハードルは越えなくてはならず、つまずきの補償を先延ばしにすればするほど、学習や情報獲得の機会を失うことにもつながっていく。

現に、このようなつまずきを抱え、小学3年生で相談に訪れた子もいた。彼は、既に学習全般に抵抗感を示していた。しかし、集中的に“特殊音節”の読みの指導を実践したところ、しっかりと習得していったのである。

このような経験を通じ、ますます、学習の基本となる力については、早期に支援することが不可欠であり、また実現できるという感を強くした。

そこで、小学1年生並びに2年生という早期の段階で、子どもがつまずく前に、またはつまずきが重篤化する前に、指導・支援を提供する学力指導モデルを開発したいとの着想に至った。つまり、子どもの状態像やニーズを早期に把握すること、明確かつ体系的な指導法を用いるで、全ての子どもがターゲットとなる学習課題を習得し得るとの仮説、いや確信のもと、実践との協働により研究を開始した。

研究代表者

海津 亜希子

通常の学級における学習につまずきのある子どもへの 多層指導モデル（MIM）開発に関する研究

はじめに

目次

この報告書の趣旨と構成

第Ⅰ章 MIMの概要

1. 子どもの伸びを捉え指導につなげるアセスメント
（MIM-PM: Multilayer Instruction Model-Progress Monitoring）
海津亜希子・平木こゆみ・田沼実畝・伊藤由美・Sharon Vaughn …… 1
2. 通常の学級における学習につまずきのある子どもへのMIM（Multilayer Instruction Model）
— MIM特殊音節指導パッケージ —
海津亜希子・田沼実畝・平木こゆみ・伊藤由美・Sharon Vaughn …… 5

第Ⅱ章 研究報告

1. 読みにつまずく危険性のある子どもに対する早期把握・早期支援の可能性
—Multilayer Instruction Model・Progress Monitoring（MIM-PM）の開発—
海津亜希子・平木こゆみ・田沼実畝・伊藤由美・Sharon Vaughn …… 25
2. 通常の学級における多層指導モデル（MIM）の効果
—小学1年生に対する特殊音節表記の読み書きの指導を通じて—
海津亜希子・田沼実畝・平木こゆみ・伊藤由美・Sharon Vaughn …… 38
3. 特殊音節の読みに顕著なつまずきのある1年生への集中的指導
—通常の学級での多層指導モデル（MIM）を通じて—
海津亜希子・田沼実畝・平木こゆみ …… 52

第Ⅲ章 実践報告

1. 1年生1stステージの指導
—通常の学級の担任としての取り組み— …… 栗原光世 …… 65
2. 1年生入門期の特殊音節の指導
—指導案をもとにした1stステージの指導— …… 片山真喜代 …… 70
3. 通常の学級での1stステージの指導を通じた授業作り
—教室環境や教材の工夫— …… 竹崎志保 …… 89

4. 1年生2nd, 3rdステージの指導 ー特別支援学級の教師としての給食時の取り組みー	鈴木慶子	94
5. 1年生3rdステージの指導 ー給食準備時の教室内で行う指導の効果ー	片山真喜代	99
6. 小規模校でのM I Mの取り組み ー管理職としての見解ー	安部寛子	103
7. 学校を挙げてのM I Mの取り組み ー全校で取り組む早口ことば, 5年生とのペア学習ー	秋田治美・井上賞子	108
8. M I M特殊音節指導パッケージの活用方法の工夫と応用教材の作成 ー2ndステージ, 3rdステージの指導を中心にー	杉本陽子	113
9. 2年生における特殊音節のルール確認 ー1stステージの指導としてー	栗原光世	126
10. 2年生における特殊音節指導の効果 ー1学期に集中的に行われた1stステージ指導ー	海津亜希子・栗原光世	132
11. 読みにつまずきのある3rdステージの2年生への短期集中型指導の効果 ー給食前の時間を活用した, 小集団による指導ー	田沼実畝・海津亜希子・平木こゆみ	135
12. M I Mを全校の取り組みに広げた学校の他学年にみる効果	海津亜希子・田沼実畝・平木こゆみ	139
13. ディスレクシアの児童へのM I M特殊音節指導パッケージを用いた個別指導	平木こゆみ	143
14. ディスレクシアの子どものM I M-PMの得点傾向	海津亜希子	149
15. 通常の学級での個別の配慮計画をもとにした指導 ー2ndステージの子どもへの支援ー	海津亜希子・田沼実畝・平木こゆみ	156
16. M I M-PMの最適な実施頻度の検討	海津亜希子・平木こゆみ・田沼実畝	161

おわりに

本研究に関する発表論文一覧

執筆者一覧

この報告書の趣旨と構成

この研究では、通常の学級における学習につまずきのある子どもへの多層指導モデル（MIM: Multilayer Instruction Model [ミム]）の開発、並びに学校教育での実施可能性、および有効性について検討した。

多層指導モデル（MIM）とは、通常の学級において、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供していこうとするモデルである。特に、子どもが学習につまずく前に、また、つまずきが重篤化する前に指導・支援を行うことをめざしている。基本的には以下のような3層構造になっている。

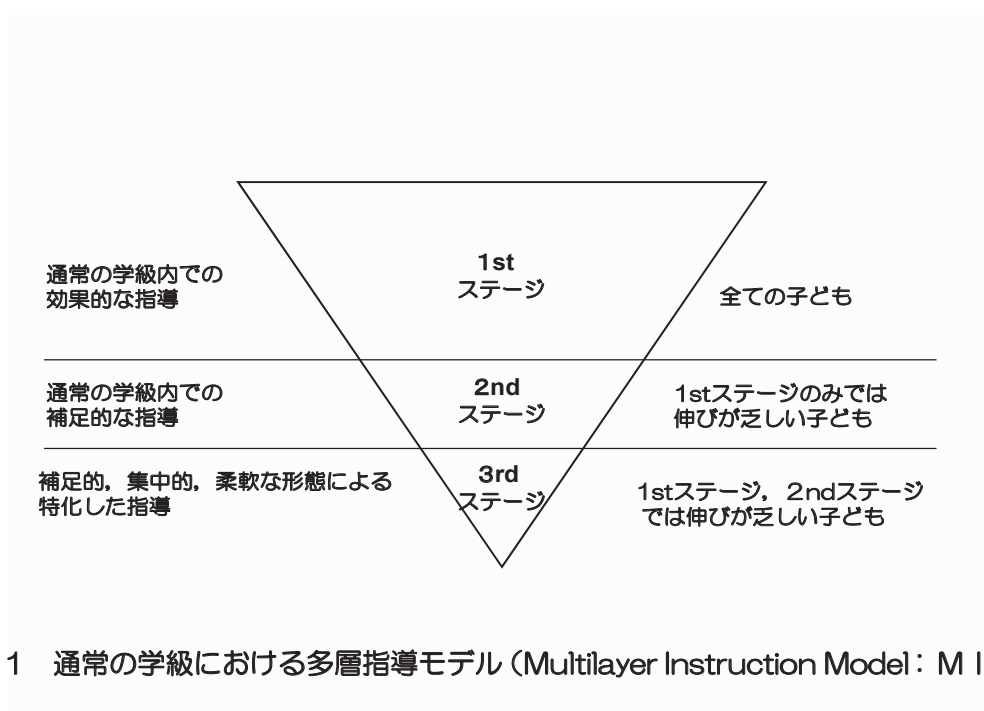


図 1 通常の学級における多層指導モデル (Multilayer Instruction Model: MIM)

1st ステージでは、通常の授業の中で、質の高い、科学的根拠に基づいた指導を、全ての子どもに対して実施する。2nd ステージでは、1st ステージによる効果的な指導を受けても尚、伸びが十分でない子どもに対し、通常の授業に加え、その他の時間帯等も使いながら補足的な指導を行っていく。3rd ステージでは、それでも伸びが乏しい子どもに対し、より個に特化した集中的な指導を実施する。尚、こうしたニーズは、定期的なアセスメント（本研究では、MIM-Progress Monitoring [MIM-PM; ミム・ピーエム] というプログレスモニタリング）の結果をもとに判断していく。

そこで、本報告書は、以下のような多層指導モデル（MIM）に関する研究と実践報告で構成している。

第Ⅰ章では、多層指導モデル（MIM）を機能させる上で重要なアセスメントMIM-PMと、MIM特殊音節指導パッケージの概要について述べた。

第Ⅱ章では、研究報告として、3編の論文を掲載した。

1編目は、多層指導モデル（MIM）の中で重要な役割を担うアセスメント、MIM-PMについての報告である。これは、子どもをつまずきを早期に把握し、支援につなげることを目的としたアセスメントである。ここでは、MIM-PMの実施可能性及び有効性について検討した。

2編目は、多層指導モデル（MIM）についての報告である。MIMを用いて小学1年生に行った特殊音節の指導の効果が、学習につまずく危険性のある子どもをはじめ、その他の異なる学力層の子どもにおいてもみられるかを統制群との比較により行った。

3編目は、多層指導モデル（MIM）の中でも、特に読みについて深刻なつまずきを示した子ども、いわゆる3rdステージ指導対象の子どもへの集中的な指導の効果について検討した。

第Ⅲ章では、実践報告として、16編の報告を掲載した。小学1年生を対象とした実践、小学2年生を対象とした実践等、異なる学年による報告や、通常の学級の子ども全員を対象とし、“授業”に焦点を当てた実践、学習に深刻なつまずきを示した子どもへの“特化した指導”等、様々な視点からの報告がなされている。また、これらは、通常の学級の教員、通級指導教室の教員、特別支援学級の教員、管理職等、異なる立場から報告されている。

このように、本研究では、通常の学級における学習につまずきのある子どもへの多層指導モデル（MIM）を有効なものとするため、MIMの効果や実施可能性の検討を、理論的な整理と実践への応用という2つの観点から行った。

